



1 / 6日の舞台公演が行われた「ホーム・マンチェスター」。
約500席の劇場です。
2 / 6日の公演は19時半からのため、午前中は立ち位置や音響の確認など、入念なリハーサルが行われました。

という細長い部分を口の中で振動させ、川のせせらぎや鳥のさえずり、風の音を模倣する楽器です。進藤真奈美さんと木村明日香さんの二人がステージでムックリの演奏を始める、来場者はその音色に聴き入っていました。

続いて会員10人が「フンペリムセ（ク

ジラ踊り）」を披露。フンペリムセが始まると来場者は前のめりになり、興味深くその踊りを見つめていました。

翌6日は、会場が前日の「ファースト・ストリート・スクエア」の隣にある「ホーム・マンチェスター」へと移り、屋内での舞台公演となりました。

この日は19時26分からの公演で、前日より持ち時間が7分多いことから、アイヌ古式舞踊「クリムセ（弓の舞）」を追加。クリムセは、山へ狩りに行き、美しい鳥を見つけるも矢を射るか迷っている様子を踊りにしています。ムックリの演奏が終わると、新藤愁弥さんと光弥さん兄弟、渕野諒さんの3人がクリムセを披露しました。最後はフンペリムセで公演を終えると、前日と同様に割れんばかりの大きな拍手が寄せられました。室内での舞台公演では、照明や音響という効果もあり、一層来場者に感動を与えていました。

また、5日と6日の両日は、マンチェスター中央図書館で白糠町のPRブースを出展。6日の14時から16時までは同ブースにてアイヌ紋様刺しゅう講座を開催し、来



アイヌ紋様刺しゅう講座には多くの方が来場しました。

場者との異文化交流を図りました。

今回の「アイヌ文化海外研修交流事業」は、費用の一部に国のアイヌ政策交付金を活用しており、白糠町のアイヌ文化は、日本から参加した市民や団体の方も含め、海外でも多くの人に感動を与え、興味をもってもらうことができました。本町では、これまでもユーチューブなどでアイヌ文化を世界へ配信していますが、今回の事業は、海外での反応を直に感じることができた新たな取り組みとなりました。また、参加した会員の皆さんもアイヌ文化の奥深さや魅力を再認識することができました。

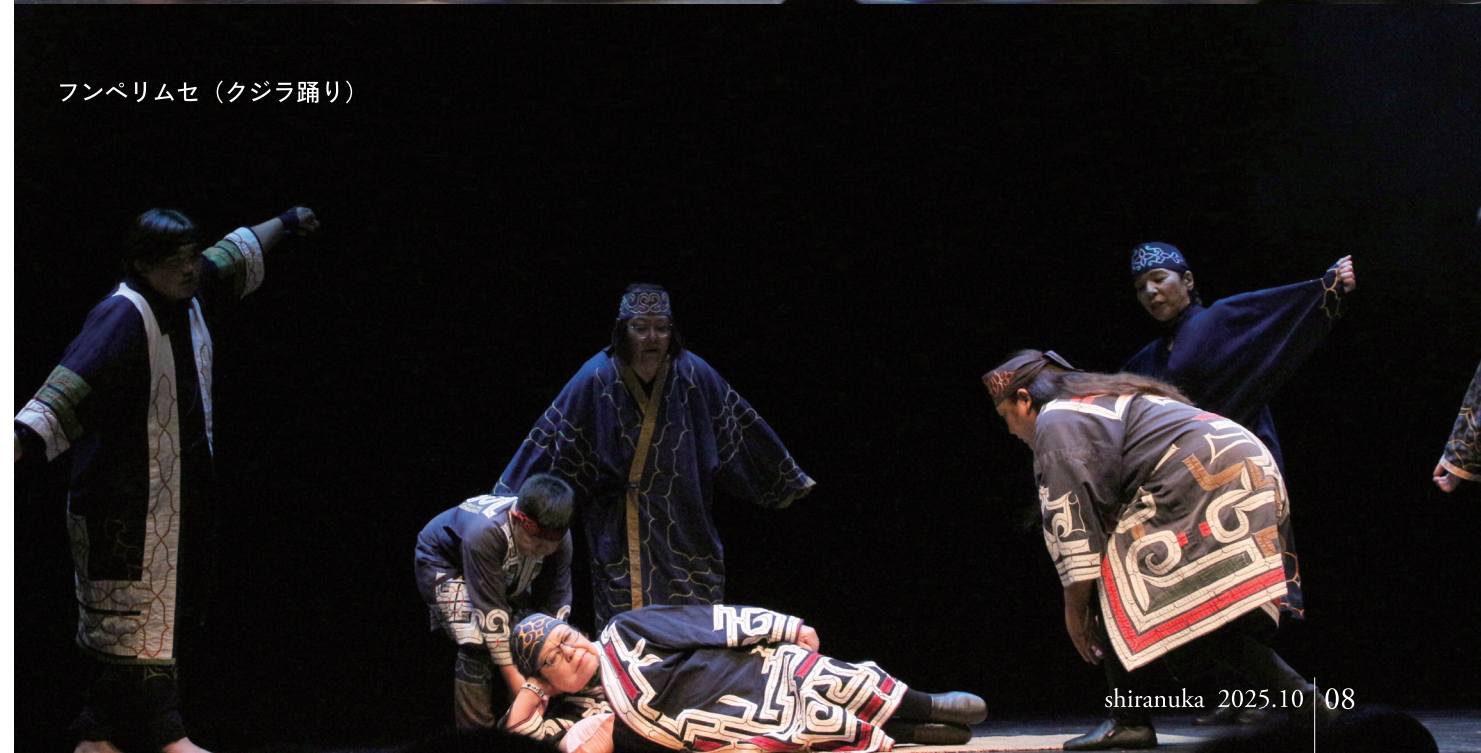
機部会長は「日本から遠い英国ですが、本当に来て良かったと思います。いろいろな人に声を掛けられ励まされ、私たちもたくさんの感動をいただきました。一生の思い出です」。棚野町長は「とても素晴らしい公演で感謝しました。会員の皆さんには心から感謝申し上げます。アイヌの伝統文化は、海外でも多くの人の心に訴えかけるものでした。今後もアイヌの伝統文化を国内外で発信していきたい」と話していました。



ムックリの演奏



クリムセ（弓の舞）



フンペリムセ（クジラ踊り）